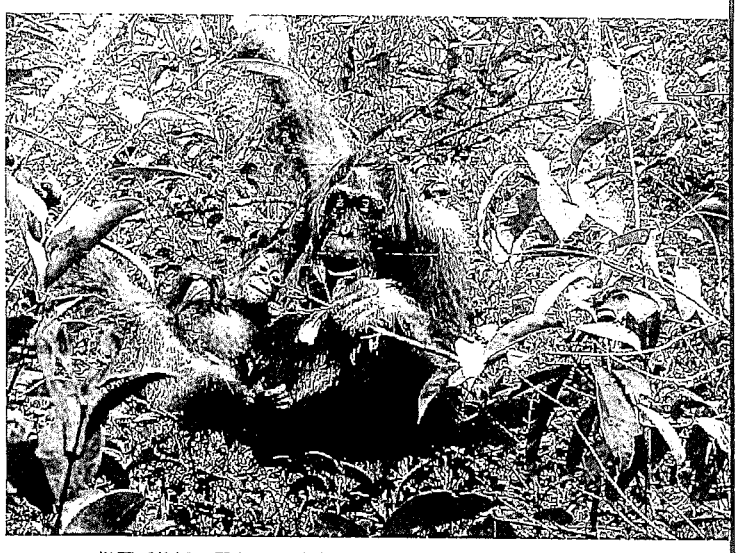
危機に瀕する「森の住人」を救え！

オランウータン

地球環境を警告するカナリア

保護活動への支援を訴え



世界で絶滅の恐れのある生物の種に挙げられるオランウータン

トグ・マヌランBOS財団CEO

オランウータンは現在、生息地である熱帯の森の急速な消失によって、絶滅の危機に瀕している。

オランウータンの個体数は、過去100年の間に、およそ90%以上も減少したとみられる。その主な原因は、パームオイル農園拡大や木材の違法伐採、鉱物採掘、ペットにすることを目的とした、密猟や密輸など違法な野生動物取引などが挙げられる。オランウータンの交易は禁止されているが、タイではプーケットなど国際的観光地でオランウータン同士のキックボクシングなどの興行が行われている。

オランウータンはスマトラとボルネオにしか棲んでいない。現在、BOSではそのボルネオの東カリマンタンと中央カリマンタンに拠点を構えている。この二つの拠点の周辺では、草原になった劣化された土地に植林し、森林に戻すことができた。

野生に戻すことが保護

東カリマンタンの拠点には約10万㌶の土地がある。今までは開発されていない土地だった。その土地に植林を行ってきた。

中央カリマンタンの方は、世界最大のオランウータン・リハビリセンターになっている。

中央カリマンタンの保護センターには、世界で最も数が多い613頭のオランウータンがいる。このうち約400頭を自然界に戻していく予定だ。

東カリマンタンのリハビリセンターには226頭のオランウータンがいる。しかし、すべてを自然界に返せるわけではない。結核や肝炎、心臓病などの病気にかかっているオランウータンがいるためだ。彼らを自然に返すと生きていけないので現在、特別な保護地に置かれている。

リハビリセンターの設備は、診療所に保育所、検疫、隔離する檻などで構成され、餌としての果物や食料、サプリメントなどを備蓄している。また、要員はオランウータンのベビーシッターに専門家などから成る。経費は大体、年間1頭当たり最低3500㌦といったところだ。

野生のオランウータンは自然界に現在、約3000頭いるとされる。オランウータンのDNAは97・4%、人間と同じで人間に非常に近い。

1992年から2002年までBOS財団は、保護したオランウータンを自然界に返していった。しかしそれ以後、今日まで8年間、1頭のオランウータンも自然界に返していない。というのも、オランウータンが生きていける生息地が見つからないからだ。

しかし、インドネシア政府が森林開発区を与えてくれ、オランウータンをやっと自然に戻せる時が到来しようとしている。東カリマンタンに8万6400㌶の森林開発区を与えられ、さらに今後、2万3500㌶の土地を供与される予定だ。そのためには60年間に1㌶当たり1500円のライセンス料が必要となる。8万6400㌶だと約1億円ほどの金額だ。

2011年の4月ぐらいをめどにオランウータンを自然界に戻していきたいと思っている。2015年まで何回にも分けて返していく。オランウータンの保護というのは、保護センターで管理することではなく、野生に戻すことだ。

あるカリマンタンの天然の森林に返すことだ。これは私たちの基本的な任務というだけではなく、「熱帯雨林の保全」という観点からも重要なものだ。

さらにBOS財団は、オランウータンの生息や繁殖を確実にするため、より適切な森林環境づくりを目指している。

適切な生息環境がなければ、オランウータンが自然界で生き残ることは困難だ。私たちの森林は過去、さまざまな原因から厳しい乱用を受けてきた。そして、森林環境の劣化と減少は、野生のオランウータンが生き残ることを困難にさせ、生息地の劇的な破壊と損失をもたらした。

したがって、オランウータンのために持続可能な未来を確保することは、私たち人類にとっての持続可能なプログラムの要件である「森林保全」と「森林再生」と密接にリンクしている。

オランウータンの将来の生存は、彼らの母体となる森林を守ること、そして再生するための私たち人類の能力に懸かっている。

エルニーニョは暑くて雨が降らない。ラニーニャのときは、雨が多い。もともとの原因はインドネシア海域に熱い海水が広がるとラニーニャになり、それはインド洋から押し寄せられてインドネシアに集まる。そして、インドネシアで暖められた空気が北上する。自転しているから真っすぐとはならず、日本の方に上ってくる。その結果、今年は暑い夏となった。さらにロシアでは森林火災が広がり、原発被害があったチェルノブイリまで山火事になった。

中国では一億人ぐらいが水害被害に遭い、パキスタンでも1000万人近い人が被災した。その本をただせばオランウータンと関係あるのではないか。オランウータンは熱帯雨林の管理人だ。管理人のいない建物は荒れてくる。その同じ状態が熱帯雨林でも起こっている。

森林が後退することで水と大気の循環が悪くなり、日本での熱波やスコールと変わらない集中豪雨などが発生しやすくなっている。こうした異常気象とオランウータン保護がつながっているということが理解できる。私たちは叡智を振り絞って、森林環境の劣化と劇的な破壊を食い止め、持続可能な未来を構築する必要がある。

宮崎林司BOS財団日本代表

地球の肺・熱帯雨林を守ろう

オランウータンは木の頂上で生活している。われわれ日本人が熱帯雨林で切った木材というのは、全部大つの層に分けられる。

この構造下で一番高い木を伐採するということは、一番高い日釜部分をごっそり取り除く作業と同じで、その下に生息していた木や林の多くは二次林となり、豊かな熱帯雨林を形成していた元の五層構造は消滅してしまう。

こうした木材伐採による森の修復には莫大な費用がかかるものばかりだ。熱帯雨林は五層構造となっており、高さ70㍍近い高木や亜高木、それに中低木層、灌木(低木)層、さらに下草やシダ類といった林床の五日光に弱い部分は弱ったり枯れてしまう。だから一番高い木を伐採するということは、その部分だけでなく周辺部を含めた森に致命的な打撃を与え、残された森

森林保全・再生と密接にリンク

ブンガラン・サラギBOS財団理事長

私はパームオイル農園事業に関与していた。インドネシアでパームオイル農園の経済効果の論文を書き、それを推奨した初めてのインドネシア人だった。1979年のことだった。1979年には36万㌶しかパームオイル農園はなかった。30年を経て今、インドネシアのパームオイル農園は750万㌶を超えた。私は正直に言うと、大きな過ちを犯した。

私は古い経済パラダイムをベースに活動していた。

私は、多くの人が考えていた開発パラダイムを推進してきた経緯がある。

2002年から04年の間、農業大臣になる機会があった。当時、古い開発プログラムに基づき、パームオイルの農業開発を推進した。当時は、革新的大臣だと自負していた。

04年の大臣引退後、日本人である私の妻がBOS財団の創設者と出会い、彼女は木材伐採だけでなくパームオイルにもオランウータンが苦しめられていることを聞いてきた。妻と娘は私に、オランウータンのために何かしないといけないと迫り、私も合意した。

子供の時、サルは敵だった。私の父の生業は農業だった。種をまいても、収穫する前にサルが収穫した。サルこそはわが家の食料を略奪する存在だったのだ。それでも妻と娘の説得に分かったと言った。

ただ本当は、パームオイル農園も持続可能な形で助けたいというのが私の本音だ。オランウータンとパームオイル農園の、ウィン・ウィンの関係の構築こそが私の理想だからだ。

BOS財団の事業には、優先事項がある。何にも増して優先されるべきは、リハビリ訓練を終えたオランウータンを彼らの生息地で必要となる。むしろ、人間が手を入れないで今ある熱帯雨林を守るほうが遥かに有効で経済的でもある。

現在、生物種がどんどん失われて、生物多様性の問題が国際的な議論になっている。生物多様性の宝庫であり、地球の酸素の50%を供給してくれる「地球の肺」でもある熱帯雨林の存続こそは、オランウータンやインドネシアだけの問題ではなく地球規模の課題だ。

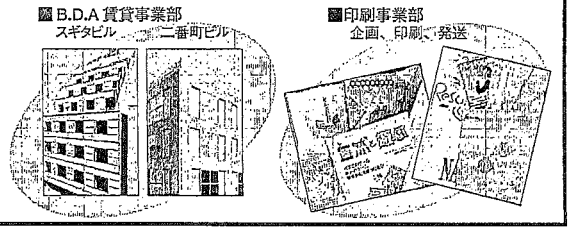
私たちは熱帯雨林を保護し、オランウータンを絶滅から守ります。

株式会社 コーケン　タックスプランニングコンサルタント 株式会社　御領開発 株式会社　パテオ建設 有限会社
有限会社 内山建設工業　有限会社 大原商事八百惣　有限会社 シモヤマランドスケープ
〈順不同〉

皆様のお力添えで創立94周年
お客様の満足のために、進化し続けています。

印刷を通じて皆さんと共に歩み続けて94年が経ちました。これからも多様化するニーズに、お客様の気持ちになって考え、皆さんのパートナーとして日々精進して参ります。
近藤プランニングスの理念のSTART …Spirit(精神)、Try(挑戦)、Amenity(快適)、Rule(規律)、Trust(信頼)をさらに進化し、皆さんと一緒に成長していく企業を目指します。
今後ともご指導ご鞭撻を賜わりますよう宜しくお願い申し上げます。
代表取締役社長 近藤譲良

KONDOU PLANNINGS
株式会社 近藤プランニングス
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4丁目9番5号
TEL:03-6802-5530　FAX:03-3261-0233



総合資源循環型企業
SUGIMOTO GROUP
「リサイクル」を通して、限りある資源の有効活用に取組んでまいります。
株式会社スギモトホールディングス
http://www.sugimotoholdings.co.jp
TEL：03-3884-2421
杉本興業株式会社
協和興業株式会社
杉本鉄工株式会社
双葉商事株式会社
千葉製鋼株式会社
有限会社丸義興産